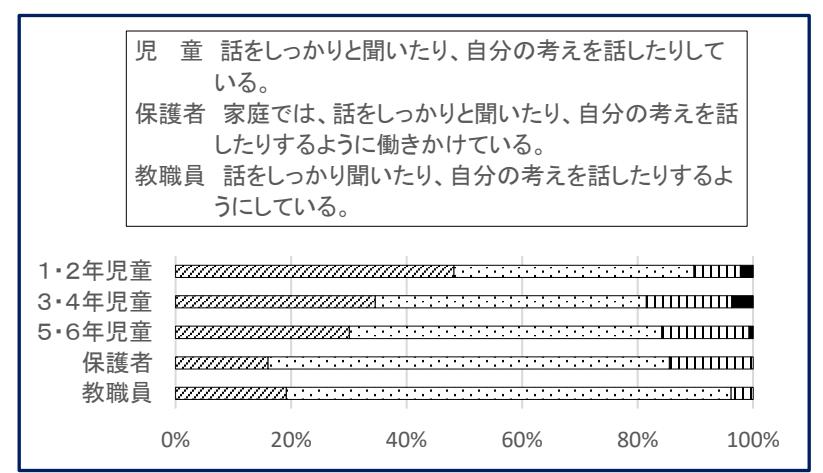
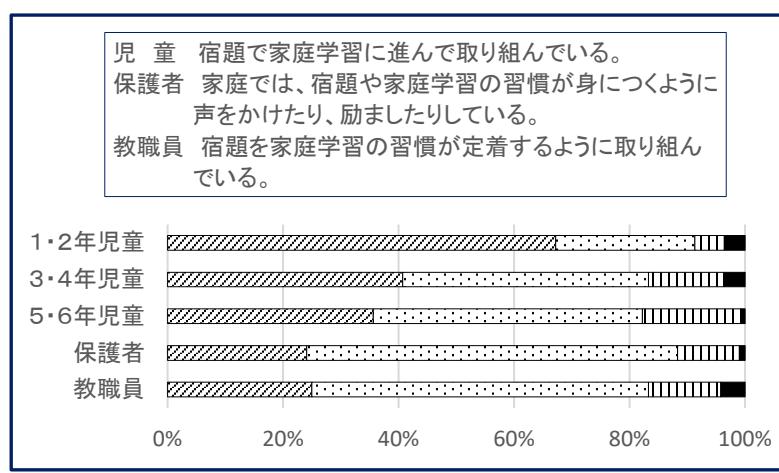
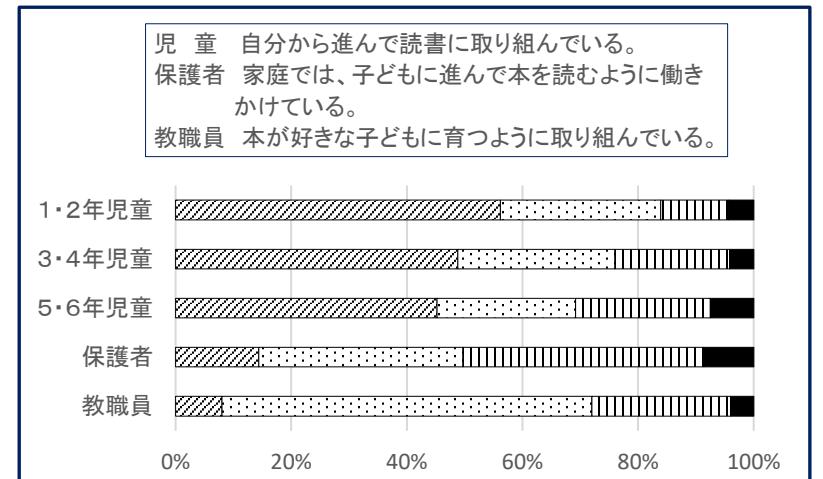
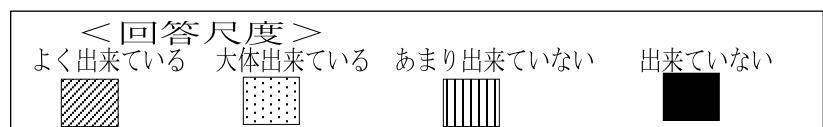
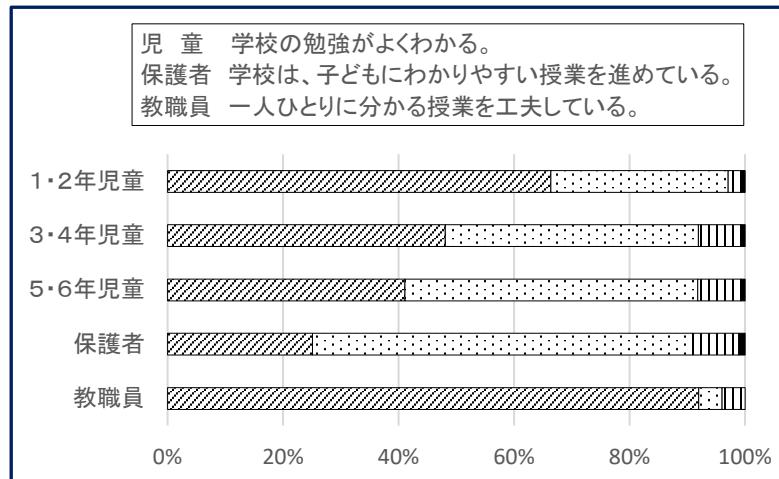


令和4年度（後半）【学校評価アンケート結果について】

1月に実施いたしました学校評価アンケートの集計結果を、お知らせいたします。「1・2年児童」「3・4年児童」「5・6年児童」「保護者」「教職員」の結果をグラフで表しています。

三者のアンケート結果から考察したことをお伝えし、来年度に向けての改善の指針とさせていただきたいと存じます。ご協力ありがとうございました。

＜進んで学習する子＞

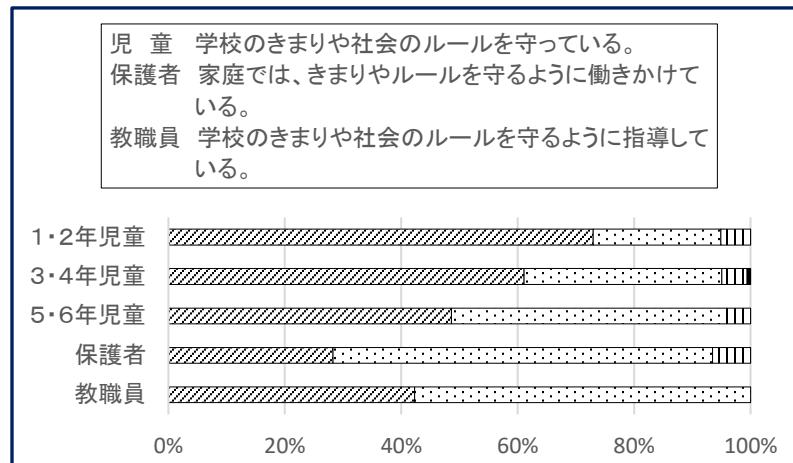
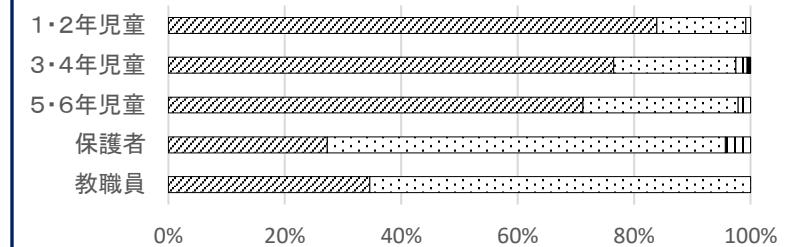


【進んで学習する子について】

『学校の勉強がよくわかる』という項目では、児童・保護者・教職員共に「よく分かる」「大体分かる」で90%以上「分かる」と答えています。今後も子どもたちが学ぶ楽しさを実感できる授業作りを研究し、基礎的・基本的な知識・技能の習得と言語活動の充実を目指した授業改善に努めています。『宿題で家庭学習に進んで取り組んでいる』という項目では、児童・保護者・教職員共に80%以上「取り組んでいる」と答えています。引き続き家庭学習が習慣化できるよう意識していきたいものです。『読書に取り組んでいる』では、児童は年齢が上がるにつれ、読書量は減少傾向にあるという結果がでました。ゆっくり読書に親しむ時間の確保が減少傾向の原因の1つになっていると思われます。『話をしっかりと聞いたり、自分の考えを話したりしている』では、児童・保護者・教職員共に80%以上「できている」と答えています。人の「話を聞く」については、相手の話をよく聞き、理解することはすべての学校教育活動の土台です。常日頃から学校で話し方や聞き方を学び、人の話を目と耳と心で聴き、今後も繰り返し学校で指導を行っていきます。

＜人（仲間）を大切にする子＞

児童 友だちを大切にし、仲良くしている。
保護者 家庭では、友だちを大切にしたり、やさしい心が育つように働きかけている。
教職員 友だちを大切にし、思いやりのある子どもに育つよう取り組んでいる。

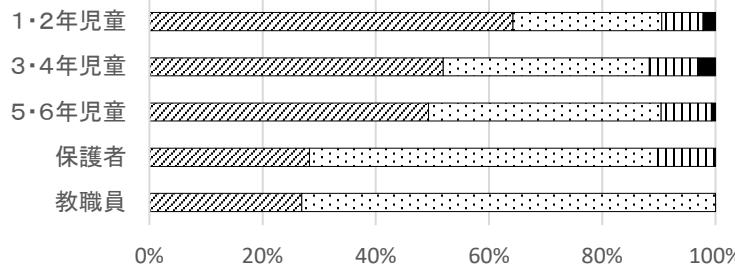


【人（仲間）を大切にする子について】

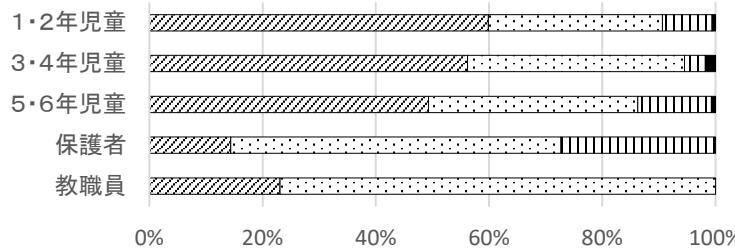
『友だちを大切にし、仲良くしている』という項目では、児童・保護者・教職員共に「よく出来ている」「大体出来ている」が95%以上ありました。子どもたちを育てる大人の意識や言動が子どもたちに影響を与え、より「優しい心」や「思いやりの心」が育つと考えています。児童1人1人が自分は大切にされているという実感をもてるよう環境作りに努めています。また、『学校のきまりや社会のルールを守っている』では、児童・保護者・教職員共に「よく出来ている」「大体出来ている」を合わせて90%以上ありました。子どもたちが、安心・安全な生活を送るために、きまりやルールを守っていくことがポイントの1つと考えています。学校では、道徳科の授業や学級活動、普段の生活、人との関わりの中で、児童のきまりやルールを守る意識を高めていきたいと思います。ご家庭でも家庭の事情に合った家庭教育で子どもたちの規範意識を高めていただければと思います。

＜自分から行動できる子＞

児童 友だちや先生、地域の人に進んであいさつしている。
保護者 家庭では、子どもが進んであいさつするように働きかけている。
教職員 子どもが進んであいさつをするように指導している。

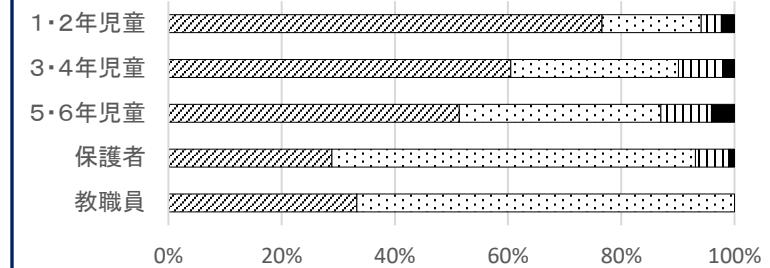


児童 話す相手や話す場面に合った話し方ができる。
保護者 家庭では、話す相手や話す場面に合った話し方ができるように働きかけている。
教職員 話す相手や話す場面に合った話し方ができるように指導している。

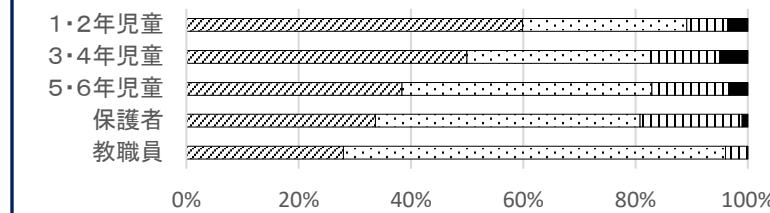


＜心も体もたくましい子＞

児童 学校に楽しくかようことができている。
保護者 家庭では、子どもが楽しく学校に通うことができるよう働きかけている。
教職員 子どもが楽しく学校に通うことができるように指導している。



児童 早寝・早起き・朝ごはんなど、健康に気をつけて生活している。
保護者 家庭では、早寝・早起き・朝ごはんなど、基本的な生活習慣を身につけられるようにしている。
教職員 早寝・早起き・朝ごはんなど、健康に気をつけた生活ができるように取り組んでいる。



【自分から行動できる子について】

『あいさつしている』という項目では、児童・保護者・教職員共に90%前後「できている」と答えています。実際に児童は相手の目を見て、声量を増やし声を出してあいさつしている子が増えてきています。今後も教職員が子どもたちにあいさつする姿を見せていくことで自主的に「あいさつできる子」が増えていくように取り組んでいきます。

『話す場面に合った話し方ができる』という項目では、児童・教職員・保護者の認識にバラつきがありました。学校では、様々な相手や相手を想定して意図的に学ぶ機会をつくることが大切であると考えています。つまり学校では、「話す」「聞く」の基本を示すことや授業を通して、人と人との交流場面を増やすことで児童のコミュニケーション力向上に取り組みます。また、子どもたちの「言葉遣い」については教職員が子どもの模範になれるように努めています。

＜自由記述欄に記載してある項目では、保護者の皆様の記述の中から抜粋しました。＞

- もうすぐ卒業です、姉妹合わせて9年間お世話になりました。特に高学年では、英語や音楽、理科など担任以外の先生にも関わっていただき、楽しい学習をありがとうございます。高学年の2年間では、2人の先生には学校生活の中で高学年としてのいろいろな活躍の場をありがとうございます。学校は友達との関わり方を学ぶ所ですが、小学校で学んだことを胸に今後も頑張って欲しいと思っています。
- 上記のアンケートは親として毎日努めようと思う事ばかり。声かけても反発されるし子どもを見ていたらできていないことが多いので、あまりできていないという回答になります。伝えても反発されるので子供との距離感が難しくなってきました。上記の質問は毎日私なりに考えて子供に伝えてます。でも子供はできない…子育て難しいです。
- 多様性を尊重する教育をお願いします。
- ～するよう働きかけている、が結果が伴わないことが多いのが実情です。（6年生）
- 早寝早起き朝ごはんなどの基本的な生活習慣は、いくら言っても響かず、こっちが疲弊してしんどくなり、諦め、手抜き、楽な方に傾きます。どうすれば良いんでしょうね。

学校より

確かに高学年ともなると、なかなか言つたことを素直に受けとめ、行動することばかりではなくなってきますね。どのタイミングで、どんな言葉で、どんな口調で伝えるのか、一人一人に合った伝え方を考えていければ、必ず伝わっていくものだと思います。